

| | |
|------------------|---|
| Title | An Overview of Japanese Students' Lives in America (共同研究報告 : 英語一貫教育研究) |
| Author(s) | 斎藤, 薫 |
| Citation | 聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol. 19-2 : 19-19 |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2300 |
| Rights | |

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【英語一貫教育研究】

An Overview of Japanese Students' Lives in America

本年度第一回「英語教育研究会」が、5月11日、聖学院本部新館において開催され、聖学院大学の Mehran Sabet 先生が、約1年間の研究休暇を過ごしたアメリカ・カリフォルニア州において実施した調査報告を発表された。参加者は16名。英語による発表の概要は以下の通りである。

2007年から2008年にかけて62万3805人の留学生がアメリカの大学で学んだ。2008年におけるその経済効果は1億5500万ドルであった。数ではインド、中国、韓国、日本が上位4位までを占めるが、日本人の留学生数は3万3974人であり、アメリカにおける全留学生の5.4%に当たる。

この調査はアメリカで生活する日本人学生の生活について調べたものである。目的は、1. アメリカにおける日本人留学生はどんな問題を抱えているか。2. 彼らは困ったとき誰に相談に行くのか。3. 彼らはアメリカでの留学生活にどのくらい満足しているのか。以上3点を明らかにすることである。調査方法はカリフォルニア州内にある4つの短期大学のキャンパスにおいて、120人の日本人留学生にアンケートに答えてもらい、その



第1回英語一貫教育研究会



M・サベット 聖学院大学教授

うち 25 人の学生と 5 人のアドバイザー、そして 1 人のカウンセラーに、直接または電話でインタビューをした。

その結果、日本人留学生在が抱える問題の上位は、「言葉の壁」「カルチャーショック」「勉強方法がわからない」「社会的な地位やサポートを失ったと感じる」「勉強が難しい」「不安やストレス、寂しさ」「自己主張・積極性の不足」などであった。この結果を踏まえ、出発前に、これらの問題に対処できるような事前教育および到着後のケアを行う必要性が指摘された。

聖学院大学でも留学生を送り出しており、この研究が今後の留学生へのケアの参考になることが期待される。

(文責：斎藤薫 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 博士後期課程)

(2009 年 5 月 11 日、聖学院本部新館)